

平成30年5月15日

瀬戸内市議会議員

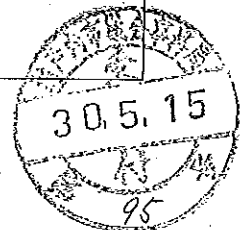
原野 健一 様

瀬戸内市議会議員 布野 浩子

政務活動費視察等報告書

政務活動費を使用して、次のとおり調査研究活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	平成30年5月8日 ~ 平成30年5月9日
訪問先	千葉県つくば市 つくば研究都市 CYBERDYNE 本社 千葉県柏市 柏市豊四季台団地 東京都千代田区 秋葉原タウンマネジメント株式会社 秋葉原 eスポーツ施設
調査事項	・ AI との共生について ・ CCRC 構想について ・ 秋葉原タウンマネジメント会社について ・ eスポーツについて
調査概要	○日本初のサイボーグ型ロボットHALを開発された山海教授は岡山出身の方で、岡山の今後を心配してくださっていると聞く。AIと共生する社会になるといわれている未来はどういう社会になっていくのか。その中で瀬戸内市の市民や子どもたちには、何が必要なのか。 ○岡山市がCCRC構想に参加しようとしている。医療最先端をいく岡山市の隣にある瀬戸内市ができることは何か。どんなニーズがあるか。 ○タウンマネジメントという新しい取り組みは、官でも民でもない、「公益的株式会社」という形で運営されている。地域の特性(資源)を活かした公益的事業を行い、その収益をまちづくり事業に再投資するという形である。瀬戸内市のまちづくりは官と民が一緒になってとりくむ協働という形をとっているが、これがなかなかうまくいかない。株式の会社の役割は何か。当市でもビジネスになるのかどうか。



	<p>○2022年アジア競技大会から正式種目採用と報じられ、最近テレビでもよく取り上げられるようになったeスポーツの今後の発展性と、日本一を誇るメガソーラーのコンテンツ産業としての可能性はどうか、研修する。</p>
<p>所感</p>	<p>○ターミネーターを彷彿とさせるサイバーダイイン社のエントランス。サイバーダイイン社を訪問して、近未来がまだらにあることを改めて実感した。</p> <p>サイボーグ型ロボットは、体内のわずかな電流をキャッチして体を動かす手立てをしてくれるロボットであり、介護される側、介護する側両方に有益なものであった。</p> <p>交通事故や脳梗塞などで体を動かすことが困難な状態になったお年寄りや子どもがその器具をつけて、歩けるようになった姿や、体を動かすことができるようになった姿は感動的で、ここまで技術がきているのかと驚き、また未来に対して少し安心もした。</p> <p>また、山海教授からこれからドローンでの荷物運搬や、自動運転による人の移動なども進んでいくのだろうという構想も伺った。行政が動かないから、教授自ら土地を買い、そこにAIと共生するまちをつくられるようだ。</p> <p>民間がやってみせなければ行政は新しいことに対して動かない。海外からはすごい引き合いがくるらしく、日本で進める意味はあるのかということに悩まされていた。</p> <p>山海教授は岡山出身で、岡山の未来も憂いておられた。いいことがあっても、岡山の人には動かないと嘆かれていた。岡山県人として、本当に肝に銘じなければいけないと思う。</p> <p>このような未来はもう少ししたら私たちのところにもくるだろう。</p> <p>私たちは頭を柔らかくしなければならないと思った。</p> <p>○日本版 CCRC 構想で柏市豊四季台に行った。</p> <p>長寿社会のまちづくりということで、柏市のモデル事業の取り組みを伺った。団地が多く、千葉都民とまで言われたサラリーマンが多く住む柏市は、地域に戻ってきた団塊世代の高齢者にどう活躍してもらい、超高齢社会にふさわしいまちづくりをするか模索してきた。介護給付金も年々増加し、平成 37 年には平成 26 年度の 2 倍になると見込みも出ている。そこで、「地域包括ケアシステムづくり」と「高齢者の生きがい就労の実現」に取り組み始めた。柏プロジェクトである。</p> <p>人口、環境、まちの成り立ちの違いがあり、瀬戸内市と比較することは難しい。24 時間対応できる訪問介護と介護の充実、医療と介</p>

護の連携強化、情報共有システムの構築、緊急時の病院によるバックアップ体制、在宅医療の市民啓発、等。何ととっても柏市の医師会との連携が素晴らしかった。

高齢者の生きがい就労を実現するプロジェクトでは、セミナーと体験学習で修了者 528 名のうち、235 名が就労している。シルバーは自分のスキルを提供する形だが、就労支援はお仕事体験もあり、これからできることの発見にもつながると思えた。

高齢者の生活から見直す虚弱予防活動。

40 歳から 75 歳までの健康増進と 75 前後からの虚弱化介護予防を研究し推進していて、65 歳以上の約 5 万人のデータを見させてもらった。フレイル（虚弱）に対するリスクとして、身体活動、文化活動、ボランティア・地域活動をしている人を 1 とすると、運動習慣はないけど、文化活動、ボランティアをしている人は 2.19、反対に身体活動はしているが、文化活動、ボランティアをしていない人のリスクは 6.42 と、人とのかわりがどれだけ健康に必要なことかを数値で教えてもらった。

瀬戸内市でもこれから高齢社会に入っていく。元気に活動してもらえる仕組みづくりは急務だ。

○秋葉原タウンマネジメント株式会社視察

秋葉原という特殊な場所でまちづくりの活動をするには、公団になって区の補助金をもらいながら、という形では制約が多すぎるといことで、株式という形にした秋葉原タウンマネジメント株式会社を訪問した。

駐輪場やロッカー、自販機の管理で収入を得ている。株式だが株主には配当なしで、困っている地域に出資する仕組みになっている。秋葉原は電気の町として有名だったが、一時落ち込み、Windows が流行ったおかげで息を吹き返した地区ということだ。

秋葉原のエリアをどうするかということ、地元町内、団体、開発業者、行政でまちづくり協議会を立ち上げた。2007 年設立。そのあと秋葉原殺傷事件がおき、警察、地域、役所が協力して安全安心を担うことになった。警察だけではなく、地域の目が常時あることは、とても効果的だということだ。

コンピューターやゲームを買いに大金を持っている客がいるということ、万引き窃盗が増えたということだった。滞在して楽しむまちではないので、防犯カメラをこの会社が設置している。しかし、プライバシーの関係で防犯カメラは一切見ない。事件があつて捜査としてみるのみという契約になっている。

千代田区は昔から住民と区役所が近い存在で、自分たちのエリア

は自分たちでという意識が高く、よってこのような活動ができるということだった。自販機の売り上げの一部といっても2000万円くらいの収入があるらしい。ということは実際には4億円くらいの売り上げなのか。

比較することはできなかったが、行政の顔が見える関係をつくっていくので、活動はしやすいという理事の話は共通するものがあった。

○eスポーツの視察について

eスポーツは、まだ日本では認知度が低いが、2022年アジア競技大会で、正式種目になり、最近では日本のテレビでも取り上げられて来ており、注目されているスポーツである。家庭用ゲーム機が流行った日本では、テレビゲームは個人的なものという認識がほとんどであるが、世界ではオンラインゲームが主流で、ゲーム人口も多く、これから日本にもその流れが来るだろうと予想されている。Jリーグも今年からeスポーツに参戦している。

実際秋葉原でeスポーツのお店を見てまわった。

ゲームという認識しかない私にとっては、驚きの連続だった。世界ではプロゲーマーが活躍していて、一回の大会で25億円というのもあり、優勝金額が2億円というのものもある。チームで戦い、コミュニケーション力が必要とされ、チェスや将棋のように頭脳も使う。また、筋力もいる。

人気のあるゲーマーがくるとファンであふれ、これからもっと注目されていくのだろうと感じた。

今事務局となって動かれている方は岡山出身で（奥様は牛窓出身）、岡山でなにかできないかという思いは持たれているが、岡山からの働きかけはないらしい。私たちが話を伺っている間にも、青森県の副知事から連絡が入っていた。これからの分野で、きっとオリンピック競技にも入ってくるだろうと予測されている。

瀬戸内市には日本最大のメガソーラーがあり、今後コンテンツ産業は注目もされている。将来性を考え、一度考えもいいのではないかと思った。